

<活動の概要>

昨年度に終了した科研「ヴィジュアルリテラシー普及にむけた基準策定とツールの開発」を延長実施し、ヴィジュアルリテラシーへ向けたツール開発と調査、それらに関する研究会を実施した。萌芽プロジェクトとして「デザインリサーチ方法論への批判的アプローチ」を実施し、デザイン方法論に取り組むデザインコンサルタントや実践企業、あるいはアカデミックな専門家に対してインタビュー調査をした。また、本阿弥光悦マルチメディア展示プロジェクト「鶴下絵三十六歌仙和歌巻」の再制作展示をした。大学間連携として7大学連携企画LED.実行委員会を実施した。

社会活動として、非常勤講師として、名古屋工業大学にて「技術戦略特論」の講義、名古屋芸術大学にて「インターメディア表現」の演習を実施した。「中川運河A.R.T.ミュージアム構想塾」にて講演した。

<学内活動>

1「ヴィジュアルリテラシー普及にむけた基準策定とツールの開発」

ヴィジュアルリテラシー教育をひろく社会に普及することを目指して、調査をおこない、ツールを開発し、基準を策定することである。今日、インターネットやSNSといった電子メディアを通して、多様かつ大量な視覚情報が絶え間なく私たちに送られてくる。その読解と活用は日常生活において一層重要性を増している。欧米における普及に比して、日本では、市民の理解は遅れている。本研究グループがこれまで進めてきた、大学におけるヴィジュアルリテラシー教育に関する成果をふまえ、企業、地域、中等教育へと展開する。国内外の事例を文献と訪問によって調査し、実践方法を議論し、ツールを開発する。そして、ヴィジュアルリテラシー普及のための基準を策定する。

1.1 研究会

2021 年度第 4 回研究会	2022 年度「絵画をみる」
日時：2022/02/22	日時：2022/05/07
場所：情報科学芸術大学院大学	場所：名古屋芸術大学

2022 年度第 1 回研究会	2022 年度第 2 回研究会
日時：2022/09/06	日時：2022/10/30
場所：オンライン	場所：オンライン

1.2 学会発表「日本デザイン学会第 69 回春季研究発表大会」

題目：リフレクションを用いた協働的デザイン実践における共通項の提案
著者：幅田悠斗 鈴木宣也
日時：2022/06/24～2022/06/26
会場：オンライン

2「デザインリサーチ方法論への批判的アプローチ」萌芽プロジェクト

デザイン思考など、社会の問題を発見し、物やシステム開発を通じてそれらを解決しようとするデザイン方法論について、2004年頃から導入される事例が増えてきているものの、実効する人やその経験則、対象としたフレーム自体の設定、あるいは提案した解決方法自体の影響も含め、方法論自体に関する検証の時期に来ている。消費を前提とした社会に閉塞感を感じ、サステナビリティへ移行しつつある状況下において、その背景にある社会性や人々の価値観の変化も踏まえ、新たな問いのあり方を模索する必要があると考える。これまでの原因と結果に基づいた近代的デザイン方法を乗り越えるためにも、現況を調査するところからはじめ、それらを分析する中で、次に続く足掛かりを検討したい。

そこで、デザイン方法論を取り入れて活動しているデザインコンサルタントや実践企業、あるいはアカデミックな専門家に対してインタビューを実施し、実例やその後の追跡も含め調査する。そのインタビューの分析する。また、同時に文献調査と学会への参加を含めながら、現況を調査し、インタビューの検証も踏まえながら結果をレポートを作成している。

研究代表：鈴木宣也 研究分担：赤羽亨

3「本阿弥光悦マルチメディア展示プロジェクト：鶴下絵三十六歌仙和歌巻」再制作展示

「よむかたち デジタルとフィジカルをつなぐメディアデザインの実践」展にて、2000年に実施した本阿弥光悦マルチメディア展示プロジェクトの再制作と展示を実施した。

本プロジェクトは、日本の伝統的な美術工芸を、マルチメディアを用いた新たな手法で展示する試みであり、2000年にフィラデルフィア美術館の本阿弥光悦展覧会と関連して企画された。巻子は作品を手にとって見るという行為そのものにも重要な意味を持つが、今日では陳列ケースの中で一部分しか目にする事ができず、本来の有様を知り、体験することは難しい状況にある。しかし、ディスプレイ上に解説や関連する画像も自由に取捨選択することができるヴァーチャルな和歌巻を設定すれば、巻子に施された和歌や下絵を自分のペースで巻きながら楽しむことができ、描かれている内容についても様々な角度からの理解が可能だ。このように鑑賞法に幅を持たせることで、作品についてより多くの情報を得ることができ、観覧者に興味と理解を導く糸口となる。

今回は「よむかたち」展において、約20年ぶりに、当時とは異なる技術を用いて実装し展示する試み。

日時：2022/06/10-2022/06/25

場所：多摩美術大学アートテーク



4 学外プロジェクト：「クリスタル広場ビジョン 7 大学連携企画 LED. 実行委員会（Leading Educational group for Display research）」

名古屋の中心として新しくなったクリスタル広場は、LED 柱によるディスプレイ空間として生まれ変わった。これまでの平面大型 LED ディスプレイとは異なり、柱 4 面をディスプレイとした立体感のあるオブジェと表示装置を組み合わせた新しい映像装置が設置された。4 本の柱により映像空間が作られ、公共の場において新たな映像空間体験のできる貴重な場でもある。そのような新しい映像空間の可能性を念頭に、愛知・岐阜の映像メディアを専門とする 7 つの大学が集まり大学間連携し、それぞれの学生がこの LED 柱を使った思いの表現へ取り組み、41 作品が集まった。実験的だが新たな表現媒体へ学生が触れる良い機会であるとともに、クリスタル広場を訪れた方々へ新たな体験を提供する。2023 年 1 月の上映に向けて、大学間連携を実施した。

日時：2023/01/12-2023/02/03

場所：クリスタル広場ビジョン

参加大学：

- ・愛知県立芸術大学
- ・愛知淑徳大学
- ・情報科学芸術大学院大学
- ・椋山女学園大学
- ・名古屋学芸大学
- ・名古屋芸術大学
- ・名古屋造形大学

<学外活動>

1 非常勤講師：名古屋工業大学大学院「技術戦略特論」

日時：2022/04/1-2022/08/31

内容：建築・デザイン学科と情報工学研究科のコラボレーションによりプロトタイプを作成するプロジェクト。互いの理解を深め、デザイン思考のプロセスを実施し制作を体験。

2 非常勤講師：名古屋芸術大学「インターメディア表現」

日時：2022/11/1-2023/01/31

内容：デジタル表現では、サウンドが、グラフィクスなど他の表現媒体とともに使われ、文学や映画、パフォーマンスなど、多岐にわたった表現に用いられており、それらを複合的に使うことで表現が拡張されてきた。媒体を横断するインターメディアの多様な表現をテーマに、コミュニケーションの可能性について、制作を通して理解する。

3 講演：中川運河 A.R.T. ミュージアム構想塾「A.R.T. のための地域への取り組み」

日時：2022/11/11

内容：「中川運河 A.R.T. ミュージアム構想塾」は名古屋にある中川運河を対象に、アートとテクノロジーと地域に焦点を置いたミュージアムを作り、地域の拠点を創出することを目指した構想塾である。この 3 つのキーワードに合致する IAMAS の取り組みについて紹介した。

<社会活動>

1 ソフトピアジャパン理事

2 岐阜県国民文化祭企画委員会委員

3 岐阜県国民文化祭実行委員会委員

4 ぎふメディアコスモス運営委員

5 岐阜県IoTコンソーシアム理事

6 ネットワーク大学コンソーシアム岐阜運営協議会委員

7 大学基準協会大学認証評価分科会委員